

第2回

蓄音機 コンサート

Concert

Merry
Christmas

プログラム

1 ケ・セラ・セラ

歌：ドリス・デイ

●作詞・作曲：

ジェイ・リビングストン (Jay Livingston)
& レイ・エバンズ (Ray Evans)

ケセラセラ (Que sera sera/ケ・セラ・セラ) は、スペイン語に由来するフレーズ。正しいスペイン語ではない。「なるようになる」の意。

アルフレッド・ヒッチコック監督の映画『知りすぎた男』(1956年)でアメリカ女優・歌手ドリス・デイが歌った曲。



ドリス・デイ

2 夜もすがら (ウェールズ民謡)

歌：メリー・マーチン

メリー・マーチンは『サウンド・オブ・ミュージック (The Sound of Music)』のミュージカルで主役を務めたアメリカの女優。

3 巴里でマンボを (MAMBO DE PARIS)

ペレス・ブラード

ペレス・ブラードは、1940年代にキューバの首都ハバナで働いていた頃、当時流行していたルンバにジャズの要素を取り入れた新しいリズム「マンボ」を積極的に演奏。しかしこの新しいリズムはキューバ国内では受け入れられず、1948年にメキシコシティへ移住。そこでペレス・ブラード楽団を結成、一躍人気アーティストとなった。「マンボNo.5」「マンボNo.8」で世界中に一大マンボブームを巻き起こし、「マンボの王様」と呼ばれている。

彼のスタイルは指揮をしながらステージ上で所狭しと踊り、飛び跳ね、激しく動き回りながら独特の掛け声で楽団を煽るというもので、マンボの強烈なリズムと共に、そのステージは当時の若者を熱狂させた。

4 セレン・ローサ

ペレス・ブラード

1955年に発表した「セレンローサ (Cherry Pink and Apple Blossom White)」は、映画「海底の黄金」のテーマ曲になったこともあり、全米ヒットチャートで10週連続第1位を記録。しかも、同年の全米年間ヒットチャート第1位を記録するといった快挙を成し遂げた。

5 若いお巡りさん

歌：曾根 史朗

●作詞：井田誠一
●作曲：利根一郎

曾根史朗は1954年「雪之丞変化の唄」で歌手デビュー。1956年「若いお巡りさん」が大ヒットし、同年NHK紅白歌合戦に初出場した。

6 布良の娘

歌：島倉 千代子

●作詞：西條八十
●作曲：古賀政男

島倉千代子は、昭和30年代は今で言うアイドル的存在 (テレビ放送世代の元祖アイドルともいえる) で一時代を築いた。非常に独特な高音のビブラート唱法や浮遊感あふれる発音など味わい深い歌唱法を持ち、デビュー50年を経た今もなお、第一線で芸能活動を続けている。

戦後の歌謡界に多大な貢献をした代表的な女性流行歌手の一人である。

7 りんどう峠

歌：島倉 千代子

●作詞：西條八十
●作曲：古賀政男

上記『布良の娘』のカップリング曲。

8 ラ・クンパルシータ (La Cumparsita)

マレーク・ウェーバー

●作曲：ヘラルド・エルナン・マトス・ロドリゲス

アルゼンチン・タンゴを代表する楽曲。タンゴ楽団のアルバムやコンサートでは必ずと言ってよいほど演奏され、24時間365日、常に世界のどこかで必ず演奏されている、との伝説もあるほど、最も有名なタンゴの一つである。

この曲は、ロドリゲスが17歳の時に作曲された。曲名は、スペイン語で「小さな行列」を意味する。